

全国公立学校教頭会研究大会石川大会 概要報告

県調査委員長 安田博文

全国公立学校教頭会研究大会が8月3日、4日に石川県金沢市で開催され、県副会長太田先生、事務局二唐さん、県調査委員長の安田の3人で視察に行ってきました。今大会は、参集型・オンライン型を併用したハイブリッド大会で、7施設（金沢駅周辺が3施設、少し離れた場所に4施設）10会場に分かれて行いました。開会行事は、ホテル金沢から配信し、それぞれの会場でオンラインで開催されることが、十分周知されていないため（要項に記載なし）か、間違えてホテル金沢に来てしまった参加者も見られました。

1日目は、前半に「ふるさとに誇りをもち、未来を切り拓く豊かな人づくりを目指す これからの学校運営の推進」をテーマに、國學院大学人間開発学部初等教育学科教授、田村学氏がコーディネーターを務め、3人のシンポジスト（加賀屋グループ女将 長谷川明子氏、学校法人湘南学園長 住田昌治氏、加賀市教育委員会教育長 島谷千春氏）によるシンポジウムがありました。各シンポジストから自己紹介とご自身の取組についてお話しがあり、テーマに関わり、共通する話題について、学校運営の推進に関連付けながら話し合いを深めていきました。長谷川明子氏の女将としての仕事観や視点が学校教育に通じるものが多々あり、大変興味深かったです。

後半は、金沢21世紀美術館 館長の長谷川祐子氏による記念講演があり、演題は「豊かな感性を育む場所をつくる」でした。近代芸術についての講演でしたが、少々難しいというよりは、興味を引かれるところがあまりなかったのが、理解が追いつかなかった感想です。研究大会終了後、実際に金沢21世紀美術館を訪れ、見学してみましたが、やっぱり近代芸術は理解しがたい作品が多かったです。作品についてなんとか理解しようと考えを巡らせたのは、今までで初めてのことだったと思います。いろんな視点から見つめ、考えることの大切さを再確認しました。講演でも触れていた「豊かな感性」「育む場所」を金沢21世紀美術館で体感することができました。

2日目は、午前・午後10分科会が行われました。分科会で設定された課題についての提言があり、1グループ5～6人のメンバーで自校の状況や取組を紹介するなどのグループ協議が行われました。グループ協議進行マニュアルがあったので、各グループもスムーズかつ効率的に協議が進められていました。協議後各グループの報告があり、指導助言者から助言をいただきました。分科会の中には、特別I・II分科会のように提言ではなく、講演を聴いてからの協議会という流れのところもありました。分科会の設定の仕方も大変参考になりました。

石川県には熱中症警戒アラートが出されるなど35度以上の酷暑でしたが、各会場の環境がよく、施設内は空調がよく、特に問題はありませんでした。各会場への視察のため、金沢駅から周辺への移動は、かなり汗をかきました。ただ、一般参集者は2日間移動はないので、会場のそばに宿泊していれば猛暑による問題はなかったと思います。少し離れた会場へも歩いてはいけない距離ではないし、バスはあまり時間を待たずして来るので便利だと思います。（ただしスイカなど全国交通系ICカードは利用できないのは、不便です。）

以上、全国公立学校教頭会研究大会石川大会について、概要報告とします。